



寶永元年
 申七月廿一日愷雷改正
 萬連年記録帳
 九郎豊後國海部郡佐伯海崎村
 小野元祖 松崎五九郎門前代

萬連年記録帳 (三)

編集 御手洗義夫

時二明治四年辛未三月

日田表へ京都ヨリ四条官軍少将様、御出張下向ニテ、
 近国藩知事御集会ニ相成、当藩ヨリハ知事御名代ト
 して大参事佐久間義左衛門、小参事山口藤左衛門、
 御出張ニ相成候。

此節、禁こ候、九人之家中、御召寄セニ相成候。尤、
 三人宛三日ニ御出立、尤、繫物繋り、手錠繩ヲ掛、
 連行申候。

明治四年辛未三月

当御木場 歩一始り、土蔵新規二造作ニ相成り、質
 ヲ取り可申様ニ相成。尤、此節ヨリ御木場地方支配
 ニ相成候。

同前頃、武家ヲ始め在方大庄屋ニ到迄、惣髪ニ致し
 候。尤、天下一流也。

但此頃、醫師社人共マチタカハカマ割羽織御免

明治四年辛未四月四日

御改メ。但、大庄屋宅ニテ村会人立会ニテ人別宗門

御改仕候。古今珍敷事ニ候。

同四月五日

村浦役人惣御用、此節村方小庄屋丈御はずし

浦方地目附御はずし

当所大庄屋等ニ地目付三人、大庄屋引高なし

百姓置出勤、夫役等相勉被仰付候。

尤、皆合小触共駄賃御定ニ相成候。皆合四升五合小

触四升式合五勺

但シ、小触ノ処ハ其上村百姓ヨリ麦壹石増シ申候。

同四月廿三日 村浦在々所々ニ

神武天皇御祭り被仰付、尤、其所々ニテ惣廟神社ニ

於テ仮家ヲカケ人毎参籠ニテ賑々敷、御祭事被仰付、

例年三月十一日祖帝御祭日ノ処、今年ニ於テハ当藩

祭日過去候ニ付、右四月廿三日相祭候。後年ハ右御

祭日三月十一日ト被仰出候。

一、今年麦作雨ニ傷ミ不作ニ御座候。

早麦ヨロシ、ヲソ麦程アシ

明治四年未夏

在浦大庄屋名面里正ト改候事。

同 秋、国中家別番附仕、是ヨリ戸籍方ト申役人出来、

平民ニテ迄、苗字・袴・脇差御免勝手次第相成、

穢多・非人ニ至迄、百姓同様ニ相成事。

同 九月 知事様不殘東京ニ被召寄候事。

諸国城主廃ス事。

同 諸国一流、縣ト成ル。

諸御一新トテ政事等ニ替ル事。

同 神社仏閣敷地竿入高請之事。社森等切拂之事。

同 海崎役人 里 正 笠村 諭

地目附 江藤百太郎

同 御年貢米、租税ト改申事。

明治四年未御藏相場

一石別 式百六拾目替 但、当国札六拾四匁金也。

是ヨリ本免御物成ト村方小物成、取分候之事。

同惣名前 右衛門・兵衛・之丞・助、右之名判廢ス事。

同 当年ヨリ大庄屋役銀正米拾壹石ニ定り候之事。

但シ、大庄屋名前、里正卜成事。

同 諸色相場

米 式匁三分

麦 壹匁七分

小豆 三匁式分

大豆 式匁七分

油 式拾七匁

塩壹升二付 壹匁壹分

明治五壬載申四月記ス

同三月中旬ヨリ

大分縣佐伯出張所新發、夫々御役人諸事御交格、布告・政道・萬事改法之事。在浦共役人人歩、戸長・副戸長名問相變り、戸籍嚴重二相成事。

但シ、此頃ヨリ圓金ト申ス新銀發行之事。但シ、此頃ヨリ諸色下値ニ成ル事。米穀格別下落之事。

申四月上旬ヨリ

浦々鱒大漁之事

一、式斗五升壹桶二付 札八匁五分位

一、濱干賀 壹樽二付 同三拾目位

一、煎取干賀 同 同拾一兩位

一、目刺 壹束 同壹匁八分位

一、米 壹升二付 壹匁九分五位

一、麦 同 八分位

一、酒 同 三匁三分位

但シ、此頃麦豐作之事。

壬申五月廿九日限り

海崎御場所御廢止二相成候。

右二付、商人共へ入札被仰付候。此節、町家二落札

二相成候。但、代金千貳百兩余。尤、敷地・居宅・

土蔵・納屋共四軒入質物、諸産物一切不殘候。同此

頃、所々御商売先二質物・歩質共御廢止二相成候。

明治五載壬申六月十日限り

大分縣佐伯出張所、御役所御引拂二相成、官内諸役人、宮河内ト申処二役所建立ニテ、此所ニ会集仕、政道可致事。尚又、官在浦共二里正・地目附・会合

共、御廢止二相成、副戸長・保長ト改、是即、里正・

地目附之事也。

尚又、此頃ヨリ諸方共物賣・諸勸進共御差留さしどめ二相成

候事。

(前欠)

爰二略ス。

壬申八月廿七日

規則定

一、新貨六貫文ヲ以壹兩卜定メ

但、旧国札右之金へ八掛ニ被仰出候。尤、国札壹匁

正金四分八厘定、尚又、札壹兩百貳拾五匁也。

明治五年壬申八月

戸穴村五丁、八幡宮へ芝居興行、晴天十五日也。此外、

旧御城大手前馬芝居有。臼坪明神社下芝居有。

土器屋河原芝居有。所々數力所賑々數事二候也。

明治五年壬申九月八日

松崎佐吉(後子松崎寛平卜改名)嫁婦

下野村野口、川野兼七二女、嫁ニ迎ひ取ル事。

松崎佐吉 齡廿八才

同妻津留 齡廿四才

壬申十一月 諸品相場

一、米壹升 銀壹匁六分

一、麦同 同壹匁

一、小豆同 同四匁五分

一、篠卷百目二付 同九匁同

一、種油壹升 同沙拾七匁

一、酒 同 同三匁七分

一、砂糖壹斤 同三匁九分

一、唐芋拾貫二付 同四匁

一、髮付壹斤 同拾沙匁

一、同蠟燭 同斷

一、七嶋表壹枚上々 同九匁

一、同 中下 同八匁

一、薪樫拾石二付 銀百拾匁

一、鱒水魚貳斗五升

壹桶二付 銀拾三匁

尤、此頃、呉服・太物・小間物・合物類一切

大引廻シ候。

壬申十一月廿六日夜四ツ時

御布告廻章到来、是迄太陰曆ヲ以後太陽曆卜改メ

明治六年酉一月一日ヲ壬申十二月三日ト改メ、従是
一新改曆相成事。尤、同年ヨリ四ヶ年之間、大小月
長短替ル事なし。

右之條々御布告、申十一月廿六日夜四ツ時也。

大分県参事 森下景端

壬申十一月廿六日夜四ツ時也

租税正米値段

- 一、菘石二付、金貳圓四拾八錢二厘五毛
 - 一、赤米菘石二付、金壹圓三十六錢六厘七毛
 - 一、大豆菘石二付、金貳圓廿錢五識二毛
- 右者、今般租税・御相場・御布告如件。

壬申十一月廿六日夜四ツ時也

大分県参事 森下景端

明治六年酉一月一日

大分縣長へ官内之農民、尤、岡・府内・日出・杵築・
臼杵百姓、縣廳へ押寄せ大乱仕候。海部郡ニテも一
圓大揆き仕候得共、其候慎り申候。誠ニ諸方大乱
仕候処、同四日夜四大区会所ヨリ廻文到来ニテ本縣
静納ニ相成候由ニテ、人氣和ぎ候事。

各大臣中半馬市宛候箇年并何處又ハ月何
或何月何日迄何物申預出引候事
著詳細御可申事
此後
五月廿六日
大分県令

別布致候旨候所と雖、申未儀才官内等
神官信信と無波至急可申事との也

同此頃、官在浦所々立林諸方入札御拂ニ相成候事。

尚又此頃、大分縣廳府内御城門へ御建立ニ相成、官
内中、副戸長・保長交代出勤仕候。就々処

副戸長年給金八拾五兩宛被下候。

保長年給金六兩宛被下置候。尤、此年官下一円田地
秋作毛上見分之上、上納ニ相成候。尤、当村毛上見
分九月廿五日、官内出役ニテ御座候。此年御年貢上
納、九月ヨリ翌年四月迄、四度之上納ニ相成候。

尤、銀上納八金札ニテ上納、米上納八大阪運送ニテ

上納。尤、諸上納を租税卜申候事。

當時当村役人 副戸長 笠村 諭

保 長 江藤百太郎

尚又、此年十月官下一円、田畑・新田・山林共百姓

所持之ヶ所、新規ニ竿入、延地・欠地之分、明白ニ

相改、其地所、上・中・下、當時相応之相場ニテ値

段書附、差出し可申事。

尚又、寺社共敷地竿入相改、合社ニ相成候事。

尚又、此時御布告張紙高札一区一在ニ一ヶ所宛、新

規ニ造立仕事。浦嶋ニテハ御木場辺、川端ニ健立仕

候事。壬申十一月月上旬也。

尚又、此頃旧佐伯藩御蔵所御米、縣廳へ御取越ニ相

成、此時ヨリ旧藩土面々家禄、米穀御渡ヲ廃止ニ相

成、金札ニテ御渡ニ相成候也。

尚又、此年十一月十三日迄、当佐伯中・旧知事公御

商売先御廢止、入札ニ被仰付候。

明治六年西五月

戸穴村願成寺へ廿五小区会所定り、

戸 長 佐伯村旧藩士、薬師寺李殿出役。

副戸長 笠村 諭

保長 海崎中二 大鶴 齡作

千木 清海

笠村徒太郎

明治六年西四月ヨリ

圓札通用 拾兩ヨリ十錢迄

圓金同断 十円ヨリ五錢迄

明治第六年七月廿六日ヨリ

小野氏神天満宮再健 大工始メ

旧七月十日、新九月一日 上棟也。

大工 小野 御手洗道藏

明治第六年西旧七月廿四日、新九月十五日

二十五小区戸長

薬師寺黙様、二十二小区へ処かへ被仰付、後役、

佐久間衛様、出役戸長相勤候事。

此節、保長 中野善四郎、被仰付候。

明治第六年

郡中地券相調べ、田畑・山林共不殘、其地各村各田

畑共、高反別代金高、上・中・下、右代金高下ニテ、

作得末共小細帳面仕立、右村中田畑・山・海共、其

土地儉図面一々番号ヲ付、仕立候事。数日ニ仕立成

就相成。大分縣聽へ納ル事。

旧七月廿六日、新九月十七日、

副戸長 笠村 諭 持来也。

明治七年甲戌春

一流御蔵相場、租税相場相定リ
米一石二付 金三円六十銭

明治六年酉 新十月二日 旧八月十一日

右昼八ツ時ヨリ大雨ニテ、夕七ツ半時ヨリ出水、洪水ニ相成り、所々川除ケ田畑水損、言語道断之到り、前代未聞之大洪水也。尚又其夜八ツ時、大風ニ相成、ソレヨリ水も少々軽く相成候事。

天下一般地券改、田畑山林畝数及反別高、名前共小細改差出シ候処、地券証ト申テ紙ニ一々反別・畝数・字所々書記シ、当時ノ役頭・権令森下景端ト申ス縣聽ノ役人外、地券係ノ役印ヲスエ下シ、戻シニ相成候。此地券証ニ付き、印税金上納ニ相成候。尤、地所売買、金銀貸借等、右地券証ヲ以テ取替シ候事。

明治六年酉年秋

田地作毛上見分 酉十一月六日

大分県ヨリ出役也。

明治七年戊新二月

肥前佐賀縣大乱之事。藩士一統、縣聽へ押かけ此節、頭將・江藤新平

明治六年酉旧九月二十九日 酉新十一月十八日

大黒天御来光 二鉢也

戰場ニ及ヒ、東京ヨリ官軍押下リ、大軍仕候処、藩士役所ニテ散乱仕候事。

取替賃 金拾両也

明治七年戊新五月

松崎寛平 年齢二十九才ニテ求、木場店ニテ

当区二十五小区用務所役人改格ニ相成候事。

明治第六年

酉新十二月十八日九ツ時、旧十月廿九日也。

区长 老入 佐倉 仲 佐伯旧藩士
戸長 式人

副戸長 式人

筆政方 三人

明治七年戊五月

- 海崎村旧大庄屋改格二付、□□□ト相成候人、□□
- ト申者、行年三十才ニテ右役免職ニ相成候処、役
- 中之砌り、不埒之儀有之、村中百姓不承知ニテ一々
- 明白ニ調べ、会所ニ於テ段々ニ論論ニ相及ビ弥、□
- 不分明之儀有之、村在百姓之割賦金ヲカスメ居
- り、此度分明ニ相成り、不残出金ニ相成候事。□□
- 不都合千萬ニ有之候事。

明治七年戊五月

諸商売人、売買品物、高下之税金定り候事。

明治七年戊年

旧六月十七日ヨリ 新八月

一、大雨続キ旧六月廿八日迄、尤、暑中也。

戊旧六月九日、大風雨洪水也。同六月廿七日、大風

雨洪水也。暑中ニ二度、風雨洪水仕候也。

明治七年秋作

作物一切不作ニテ御座候。内、綿格別之不作ニテ
 何連之年之十分一の出来高取揚也。何連之作物も是
 二順じ不作也。

明治七年

海崎木場へ酒造所相始り候。尤、海崎笠村勘四郎頭
 取名前ニテ、外ニ臼坪陸平、床木村小太蔵、右三人
 組合ニテ相始候。尤、七年十月之事也。

明治六年閏五月
 戸尻村願成寺江
 尤五小區會所定り
 戸長佐伯村旧藩士
 薬師寺空存爲保
 副戸長笠村諭
 海崎中
 保長 大津 笠村
 千本 海崎
 笠村 徳太郎